

設定マニュアル

RadiForce® MS236WT

タッチパネル装着カラー液晶モニター

重要

ご使用前には必ずこの設定マニュアルおよび取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。

- ・モニターの設定 / 接続については取扱説明書を参照してください。
- ・設定マニュアルを含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。

<http://www.eizo.co.jp>



製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の取扱説明書をご確認ください。

- 1.本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
- 2.本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3.本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- 4.本機の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

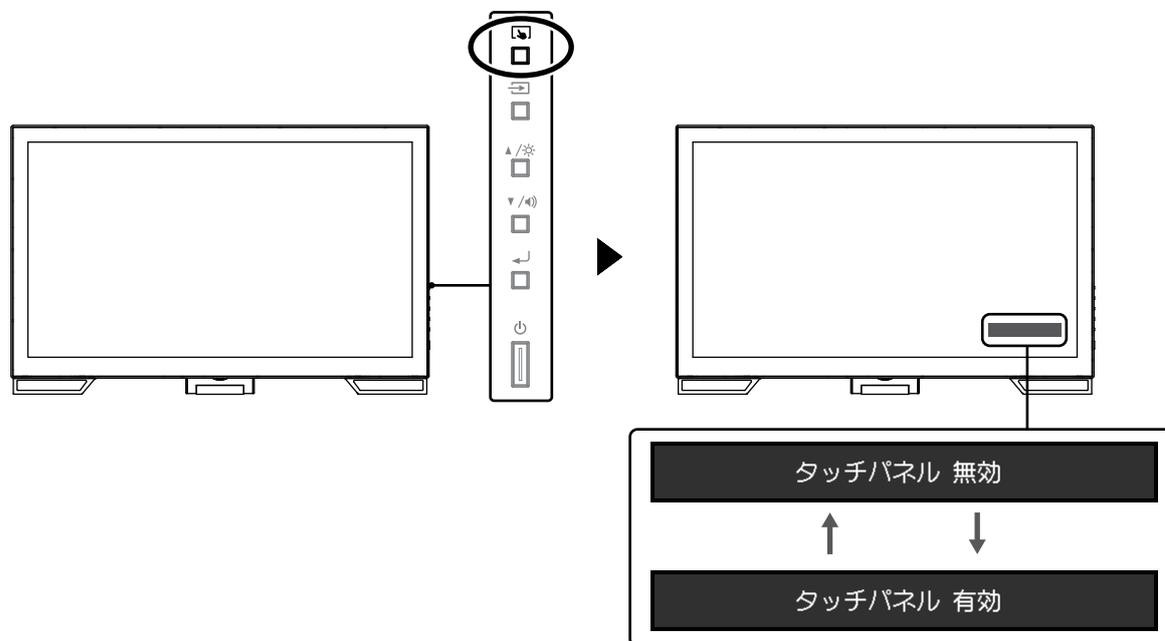
目次

目次	3	3-8. 操作ボタンのロック	18
第1章 基本の調整/設定	4	第4章 こんなときは	19
1-1. タッチパネルの有効/無効を設定する	4	4-1. 画面が表示されない場合	19
1-2. 入力信号を切り替える	4	4-2. 画面に関する症状 (デジタル、アナログ共通)	20
1-3. 明るさを調整する	5	4-3. 画面に関する症状 (アナログのみ)	21
1-4. 音量を調整する	5	4-4. タッチパネルに関する症状	22
第2章 タッチパネルの設定	6	4-5. その他の症状	24
2-1. タッチパネルの設定方法	6	第5章 ご参考に	25
2-2. タッチ位置を補正する	6	5-1. オプションアーム取付方法	25
2-3. タッチパネルの操作設定をおこなう	8	5-2. 複数のコンピュータを接続する	27
第3章 詳細な調整/設定	9	5-3. 主な初期設定値	28
3-1. 設定メニューの基本操作方法	9	● カラーモード	28
3-2. カラー調整	10	● その他	28
● カラーモード	10	付録	29
● ブライトネス	11	商標	29
● コントラスト	11	ライセンス	29
● 色温度	11		
● ガンマ	11		
● 詳細設定	12		
● カラーリセット	12		
3-3. 画面調整	13		
● 画面サイズ	13		
● スムージング	13		
● アナログ調整	14		
3-4. サウンド設定	15		
● 音源	15		
3-5. PowerManager	16		
● パワーセーブ	16		
● Ecoタイマー	16		
3-6. 本体設定	17		
● 入力信号	17		
● 電源ランプ	17		
● 言語選択	17		
● メニュー設定	18		
● リセット	18		
3-7. インフォメーション	18		

第1章 基本の調整 / 設定

1-1. タッチパネルの有効 / 無効を設定する

タッチパネルの有効 / 無効を切り替えることができます。一時的にタッチパネル機能を無効にしたい場合などに利用できます。

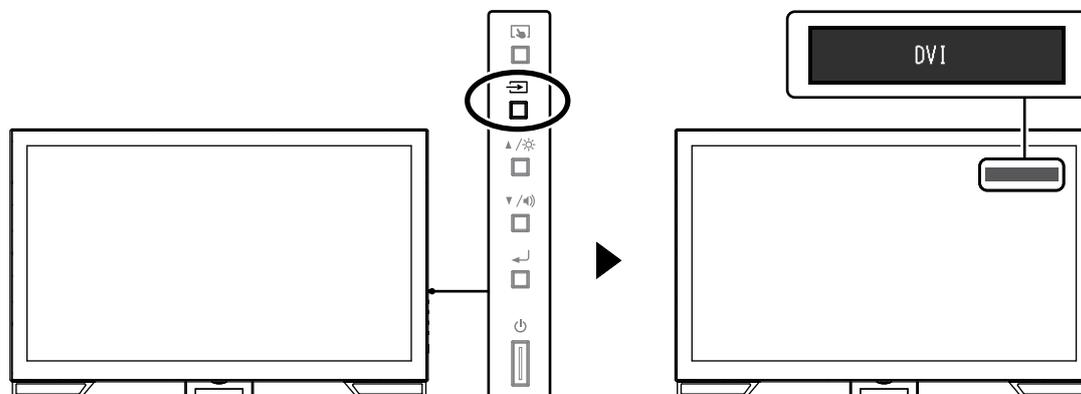


参考

-  を長押しすることでタッチ感度を調整できます。

1-2. 入力信号を切り替える

モニターに複数の信号を入力している場合、画面に表示する信号を切り替えることができます。画面右上に選択された入力ポート名が表示されます。



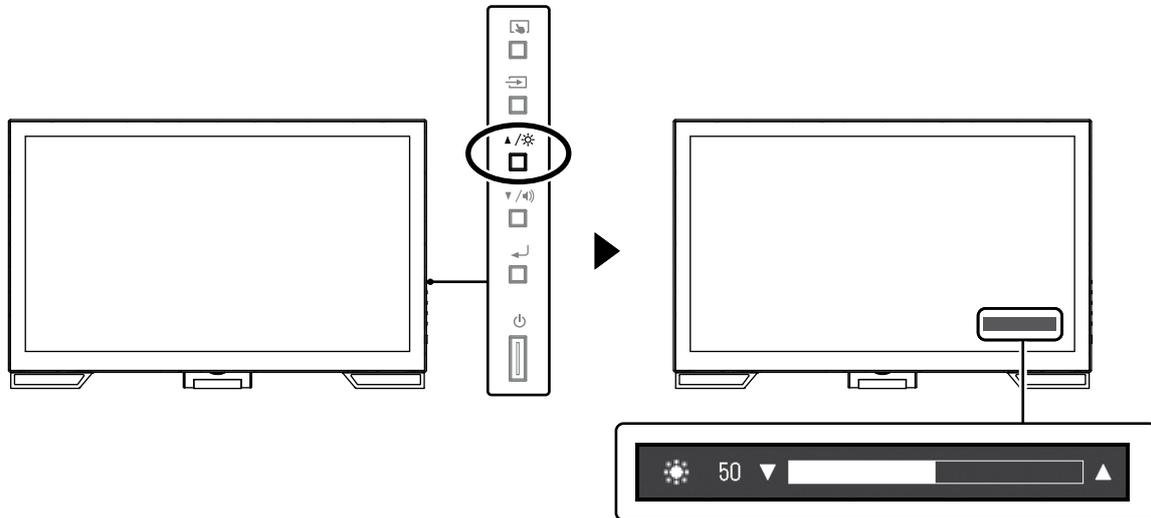
1-3. 明るさを調整する

設置環境やお好みにあわせて、画面の明るさを調整できます。

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0～100

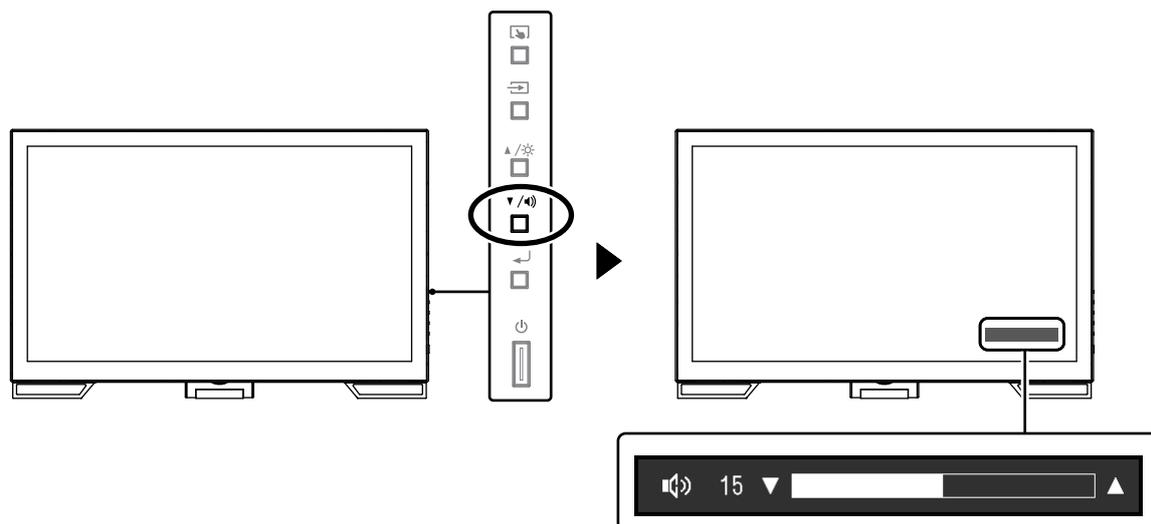


1-4. 音量を調整する

スピーカーやヘッドホンの音量を個別に調整することができます。

設定範囲

0～30



第2章 タッチパネルの設定

2-1. タッチパネルの設定方法

この製品のタッチパネルの機能は、使用するドライバおよびその設定により異なります。用途に合わせて設定してください。

機能	Windows標準ドライバ	専用のタッチパネルドライバ (DMT-DD) ^{※1}	
ドライバのインストール	不要	必要	
タッチ音の出力	×	○	
複数接続 ^{※2}	○ ^{※3}	○	
動作モード	タッチデジタイザー ^{※4}	タッチデジタイザー ^{※4,5}	マウスエミュレーション ^{※5}
マルチタッチ操作	○	○	×

※1 EIZO LCDユーティリティディスク (CD-ROM) に収録されています。

※2 ○：2台以上のこのモニターを1台のコンピュータに接続可能

※3 Windows 11 / Windows 10 のみ可能

※4 マウスエミュレーションで設計されたアプリケーション上ではタッチ操作が認識されない場合があります。

※5 設定方法の詳細はタッチパネルドライバの取扱説明書 (CD-ROM内) を参照してください。

参考

・設定が完了したら、CD-ROM内のソフトウェア「TPOffset」を実行し、タッチパネルの感度を調整してください。

Windows標準ドライバを使用する場合は、以降の内容を参照して設定します。

2-2. タッチ位置を補正する

タッチした位置とタッチに反応して表示されるカーソルの位置を合わせるために補正します。

注意点

- ・大きな導電物の影響を受けやすいため、手や金属などを画面に近づけないでください。
- ・操作中に「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示された場合は、画面の指示に従ってください。

1. Windowsのコントロールパネルを開きます。

開き方はOSによって異なります。

Windows 11

1. スタートメニューの「すべてのアプリ」－「Windowsツール」－「コントロールパネル」をクリックします。

Windows 10

1. スタートメニューの「すべてのアプリ」－「Windowsシステムツール」－「コントロールパネル」をクリックします。

Windows 8.1

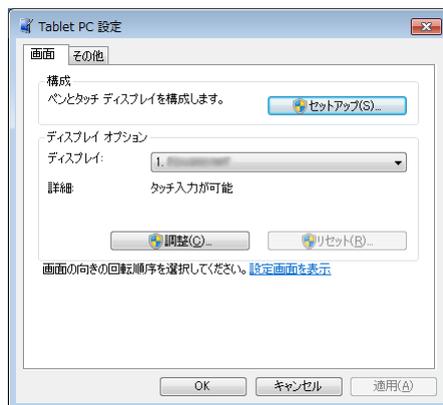
1. 「スタート」画面下のをクリックします。
「アプリ」画面が表示されます。
2. 「Windows システム ツール」内の「コントロールパネル」をクリックします。

Windows 7

1. 「スタート」－「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ハードウェアとサウンド」 - 「タブレットPC設定」 (Windows 11 / Windows 10 / Windows 8.1) / 「Tablet PC設定」 (Windows 7) をクリックします。

「タブレットPC設定」 / 「Tablet PC設定」画面が表示されます。



3. 「画面」タブの「セットアップ」をクリックします。

背景が白色のタッチスクリーン指定画面が表示されます。

注意点

- ・ モニターをマルチモニター環境で使用する場合は、表示される画面に従って、タッチスクリーンを指定してください。

4. 画面を指でタッチします。

タッチした画面がタッチスクリーンであることが認識されます。

5. キーボードの「Enter」を押します。

「タブレットPC設定」 / 「Tablet PC設定」画面に戻ります。

6. 「調整」をクリックします。

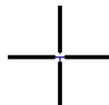
背景が白色の画面が表示されます。

注意点

- ・ モニターをマルチモニター環境で使用する場合は、「ディスプレイ」のプルダウンメニューでタッチ位置の補正をおこなうモニターを選択してから、「調整」をクリックしてください。

7. タッチマーカー（十字）を指で数秒間タッチして離します。

タッチマーカーは画面の左上、右上、左下、右下の順で16箇所表示されます。



参考

- ・ 2回目以降、タッチマーカーの表示は4箇所となります。

8. タッチ位置の補正が完了したら、「はい」をクリックして調整データを保存します。

9. 「OK」をクリックして画面を閉じます。

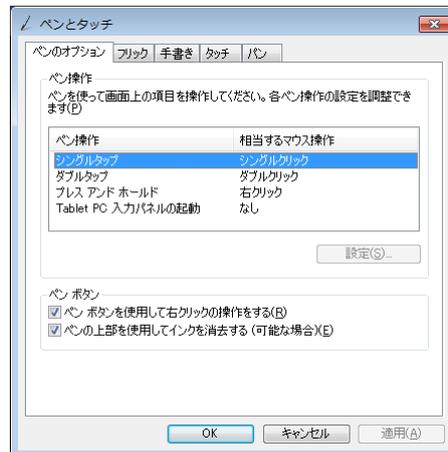
2-3. タッチパネルの操作設定をおこなう

1. Windows のコントロール パネルを開きます。

開き方はOS によって異なります。(P.6参照)。

2. 「ハードウェアとサウンド」 - 「ペンとタッチ」 をクリックします。

「ペンとタッチ」画面が表示されます。



「ペンとタッチ」画面でタッチパネルの操作設定をおこないます。設定の詳細は、各設定画面やWindowsのヘルプなどを参照してください。

3. 設定が完了したら、「OK」 をクリックして画面を閉じます。

第3章 詳細な調整/設定

この章では、設定メニューを使ってモニターを詳細に調整/設定する方法を説明します。

3-1. 設定メニューの基本操作方法

1. 設定メニューの表示

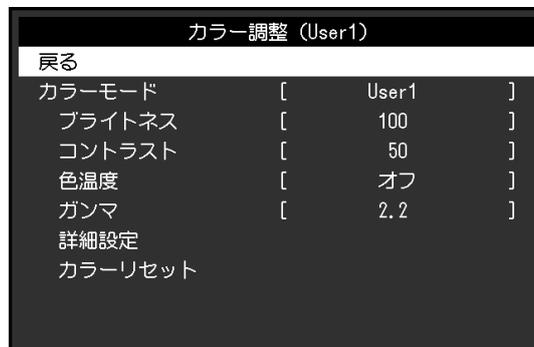
1. **←**を押し、設定メニューを表示します。

2. 調整/設定

1. **▲▼**で、調整/設定したいメニューを選択し、**←**を押します。
サブメニューが表示されます。



2. **▲▼**で、調整/設定したい項目を選択し、**←**を押します。
調整/設定メニューが表示されます。



3. **▲▼**で、調整/設定し、**←**を押して確定します。



3. 終了

1. サブメニューで「戻る」を選択し、**←**を押します。設定メニューが表示されます。
2. 設定メニューで「メニューオフ」を選択し、**←**を押します。設定メニューが終了します。

参考

- **←**をすばやく続けて2回押しても設定メニューを終了させることができます。

3-2. カラー調整

カラー調整 (User1)		
戻る		
カラーモード	[User1]
ブライトネス	[100]
コントラスト	[50]
色温度	[オフ]
ガンマ	[2.2]
詳細設定		
カラーリセット		

● カラーモード

モニターの用途に応じた表示モードに簡単に切り替えることができます。

モード	目的
User1	好みに応じた設定をおこなう際に選択します。
User2	
sRGB	sRGB対応の周辺機器と色を合わせる場合に適しています。
DICOM	医用画像をDICOM® Part 14に基づいて簡易的に表示したい場合に選択します。 注意点 ・ 診断用には使用することは意図していません。

調整できる機能は、カラーモードにより異なります。

○：調整可 ー：調整不可

機能	カラーモード			
	User1	User2	sRGB	DICOM
ブライトネス	○	○	○	ー
コントラスト	○	○	ー	ー
色温度	○	○	ー	ー
ガンマ	○	○	ー	ー
詳細設定	色合い	○	○	ー
	色の濃さ	○	○	ー
	オーバードライブ	○	○	ー
	ゲイン	○	○	ー
リセット	○	○	○	ー

注意点

- ・ 製品内部の電気部品の動作が安定するのに、約30分かかります。モニターの調整は電源を入れて30分以上経過するまでお待ちください。
- ・ アナログ信号のカラー調整をおこなうときは、最初にレンジ調整をおこなってください（「[自動レンジ調整](#)」(P.14) 参照）。
- ・ モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色を合わせるときは、視覚的に判断しながら微調整してください。

● ブライトネス

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0～100

参考

- ・ ブライトネスが100でも暗いと感じた場合はコントラスト調整をおこなってください。

● コントラスト

ビデオ信号のレベルを変化させて、画面の明るさを調整します。

設定範囲

0～100

参考

- ・ 50ですべての色階調を表示します。
- ・ 画面の明るさは、初めに、階調特性を損なうことのないブライトネスで調整することをお勧めします。
- ・ コントラスト調整は次のような場合に使用してください。
 - ブライトネスが100でも画面が暗いと感じたとき。（コントラストを50以上に設定します。）

● 色温度

色温度を調整します。

通常「白」または「黒」の色合いを数値的に表現するときに用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。

炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。また、色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。

設定範囲

オフ / 4000K～10000K（500K単位、9300K含む）

参考

- ・ 「K」表示は調整の目安としてご利用ください。
- ・ 「詳細設定」-「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です（「ゲイン」(P.12) 参照）。
- ・ 「オフ」でパネル本来の色（ゲインの値はRGB各100）になります。
- ・ ゲインの値を変更すると、色温度は「オフ」になります。

● ガンマ

ガンマ値を調整します。モニターは入力される信号によって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。

設定範囲

1.8 / 2.0 / 2.2

参考

- ・ カラーモードで「sRGB」を選択すると、ガンマ値は「2.2」と表示されます。

● 詳細設定



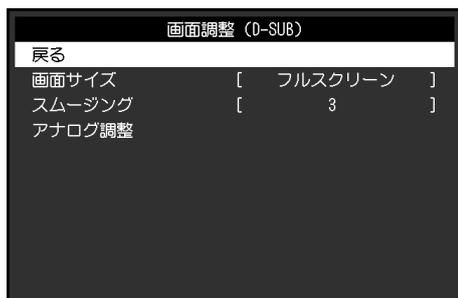
機能	設定範囲	説明
色の濃さ	-50 ~ 50	色の濃さを調整します。 参考 <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。 最小値 (-50) で白黒の画面となります。
色合い	-50 ~ 50	色合いを調整します。 参考 <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
オーバードライブ	強 / 普通 / オフ	モニターの用途に応じて、オーバードライブの強さを設定することができます。 動画を表示する場合は、「強」にすることで、残像感を低減します。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 次の場合は、オーバードライブ機能が無効になります。 <ul style="list-style-type: none"> 入力信号の垂直走査周波数が70Hzを超える場合 「画面サイズ」で「ノーマル」または「拡大」を選択している場合（表示解像度が1920 × 1080のときを除く）
ゲイン	0 ~ 100	色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色調を変更することができます。 参考 <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。 色温度の値に応じてゲインの値が変わります。 ゲインの値を変更すると、色温度は「オフ」になります。

● カラーリセット

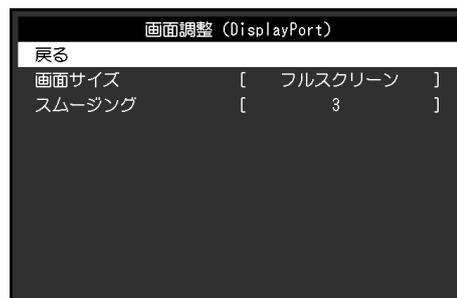
現在選択しているカラーモードのカラー調整値を初期設定に戻します。

3-3. 画面調整

D-Sub信号入力の場合



DisplayPort / DVI信号入力の場合

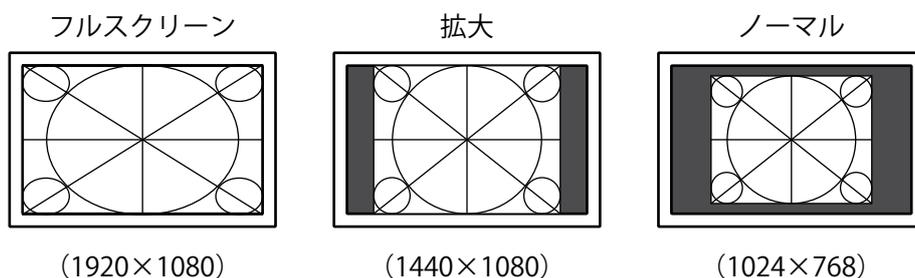


● 画面サイズ

推奨解像度以外の解像度は、自動的に画面全体に拡大されますが、「画面サイズ」機能を使用して表示サイズを切り替えることができます。

設定	機能
フルスクリーン	画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率は縦、横一定ではないため、表示画像に歪みが見られる場合があります。
拡大	画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率を縦、横一定にするため、水平、垂直のどちらかの方向に画像が表示されない部分が残る場合があります。
ノーマル	設定した解像度のままの大きさで画像が表示されます。

例：1024×768を表示した場合



● スムージング

推奨解像度以外の解像度を画面拡大（「画面サイズ」で「フルスクリーン」または「拡大」を選択）で表示した場合、表示された画像の文字や線がぼやけて見える場合があります。このぼやけを軽減することができます。

設定範囲

1～5

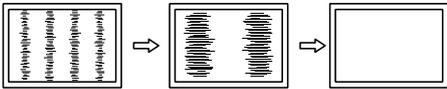
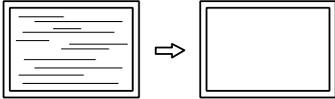
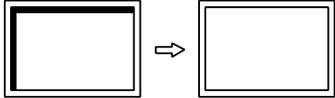
参考

- 表示解像度によってはスムージングを設定する必要はありません。（「スムージング」を選択することはできません。）

● アナログ調整



D-Sub信号入力時に、画面のちらつき、表示位置、サイズを調整できます。

機能	説明
自動画面調整	画面のちらつき、表示位置、サイズを自動調整することができます。「自動画面調整」を選択すると、メッセージが表示されますので、「はい」を選択してください。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 自動画面調整機能は画面の表示可能エリア全体に画像が表示されている場合に正しく動作します。次のような場合には、正しく動作しません。 <ul style="list-style-type: none"> - コマンドプロンプトのような画面の一部にしか画像が表示されていない場合 - 壁紙など背景を黒で使用している場合 また、一部のグラフィックスボードで正しく動作しない場合があります。 モニターに初めて信号を入力した場合、またはこれまでに表示したことのない解像度や垂直走査周波数、水平走査周波数に変更した場合は、自動的に調整されます（解像度が800×600以上の信号のみ）。
自動レンジ調整	信号の出力レベルを調整し、すべての色階調（0～255）を表示できるように自動調整できます。「自動レンジ調整」を選択すると、メッセージが表示されますので、「はい」を選択してください。
クロック	画面の縦線や画面の一部に見られるちらつきを軽減できます。  参考 <ul style="list-style-type: none"> 設定が合ったポイントを見逃しやすいので、▲▼を使って細かく調整してください。
フェーズ	画面全体のちらつきやにじみを軽減できます。  参考 <ul style="list-style-type: none"> お使いのコンピュータやグラフィックスボードによっては、完全になくなるものがあります。 設定後、画面に縦縞が現れた場合は、再度「クロック」を調整してください。
水平ポジション 垂直ポジション	画面の表示位置（水平、垂直）を調整できます。  参考 <ul style="list-style-type: none"> 液晶モニターは画素数および画素位置が固定であるため、画像の正しい表示位置は1箇所です。ポジション調整とは画像を正しい位置に移動するための調整です。

3-4. サウンド設定

● 音源



DisplayPort信号入力時の音源を切り替えます。

設定	機能
ステレオミニジャック	アナログ音声入力コネクタに接続されている音声を音源に設定します。
DisplayPort	DisplayPortケーブルで映像信号と同時に送信される音声を音源に設定します。

参考

- DVI信号入力時およびD-Sub信号入力時は、設定が「ステレオミニジャック」に固定されます。

3-5. PowerManager



● パワーセーブ

コンピュータの状態と連動してモニターを省電力モードにする / しないの切り替えができます。省電力モードに移行すると画面を非表示にします。

設定	機能
オン	コンピュータの状態と連動して、モニターを省電力モードに移行します。
オフ	コンピュータや信号入力の状態にかかわらず、省電力モードには移行しません。

参考

- ・モニターを使用しないときは、主電源を切るか、電源プラグを抜くことで電力が消費されなくなります。
- ・信号が入力されなくなったことを検出してから、約15秒後に省電力モードに移行します。
- ・モニターが省電力モードの場合でも、タッチパネルおよびUSBダウンストリームポートに接続している機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、省電力モードであっても接続される機器によって変化します。
- ・ステレオミニジャックケーブルが接続されている場合も消費電力は変化します。

● Ecoタイマー

モニターの省電力モードが一定時間続いたときに、モニターの電源を自動的に切る / 切らないの切り替えができます。

設定範囲

オフ / 0 / 1 / 2 / 3 / 5 / 10 / 15 / 20 / 25 / 30 / 45min / 1 / 2 / 3 / 4 / 5h

3-6. 本体設定



● 入力信号

設定	機能
オート	信号が入力されているコネクタを自動的に判別して画面を表示します。コンピュータの電源が切れたり、省電力モードに入ると、自動的に他の信号を表示します。
マニュアル	信号が入力されているかどうかにかかわらず、選択されているコネクタからの信号を表示します。操作ボタンの  で表示させたい入力信号を選択してください。

参考

- ・「オート」が選択されている場合は、すべてのコンピュータが省電力モードに入っている場合のみモニターの省電力機能が動作します。

● 電源ランプ

画面表示時の電源ランプ（青）の点灯 / 消灯の切り替えができます。

設定	機能
オン	電源ランプを点灯します。
オフ	画面表示時でも電源ランプを消灯したままにします。

● 言語選択

設定メニューやメッセージの表示言語が選択できます。

選択できる言語

English / Deutsch / Français / Español / Italiano / Svenska / 日本語 / 簡体中文 / 繁體中文

●メニュー設定



機能	設定範囲	説明
起動ロゴ	オン / オフ	この製品の電源を入れると、画面にEIZOロゴが表示されます。この機能を「オフ」に設定すると、EIZOロゴを非表示にすることができます。
メニューポジション	中央 / 右上 / 右下 / 左下 / 左上	設定メニューの表示位置を移動できます。

●リセット

タッチパネルの有効 / 無効設定を除く、すべての設定内容を初期設定に戻します。

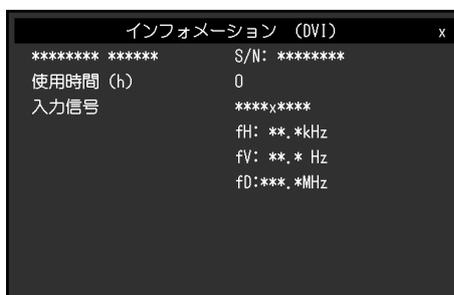
参考

- ・初期値については、「[5-3. 主な初期設定値](#)」(P.28)を参照してください。

3-7. インフォメーション

モニターの情報（製品名、製造番号、使用時間、解像度、入力信号）を確認できます。

例：



3-8. 操作ボタンのロック

設定した状態を変更できないようにします。

設定方法

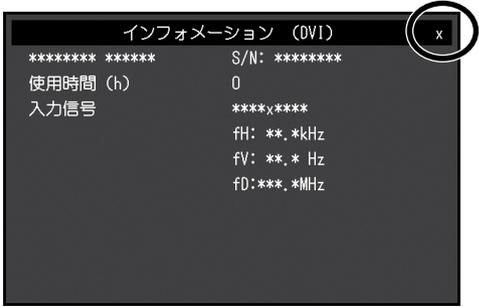
1.  を押して、モニターの電源を切ります。
2.  を押しながら  を押してモニターの電源を入れます。
操作を実行するたびにロック / ロック解除が切り替わります。

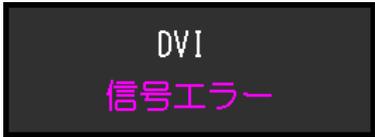
参考

- ・ロックした状態でも次の操作は可能です。
 - 電源ボタンによる電源オン / オフ

第4章 こんなときは

4-1. 画面が表示されない場合

症状	原因と対処方法
1. 画面が表示されない • 電源ランプが点灯しない	<ul style="list-style-type: none">電源コードは正しく接続されていますか。主電源を入れてください。⏻を押してください。主電源を切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。
• 電源ランプが点灯：青色	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（「3-2. カラー調整」(P.10) 参照）。
• 電源ランプが点灯：橙色	<ul style="list-style-type: none">➡で入力信号を切り替えてみてください。マウス、キーボードを操作してみてください。パネル面にタッチしてみてください。コンピュータの電源は入っていますか。ご使用のコンピュータおよびグラフィックスボードによっては、入力信号が検出されず、省電力モードから復帰しない場合があります。マウス、キーボードを操作しても画面が表示されない場合は、モニターの電源ボタンで電源を切って、再度電源を入れてください。画面が表示されたら、次の手順を実行してください。症状が改善される場合があります。 <ol style="list-style-type: none">⏻を押して、モニターの電源を切ります。➡を押しながら ⏻を押してモニターの電源を入れます。 設定メニューの「インフォメーション」のメニュータイトルに「x」が表示されます（「3-7. インフォメーション」(P.18) 参照）。  <p>The screenshot shows a black menu titled 'インフォメーション (DVI)'. The text inside includes: '***** S/N: *****', '使用時間 (h) 0', and '入力信号 *****'. The top right corner of the menu has a small white box with a black 'x' inside, which is circled in red in the original image.</p> <ol style="list-style-type: none">コンピュータを再起動します。 設定を元に戻す場合は、手順1～3を再度実行します。
• 電源ランプが点滅：橙色	<ul style="list-style-type: none">コンピュータをDisplayPortコネクタに接続している場合に、この症状が発生することがあります。当社指定の信号ケーブルで接続し、モニターの電源を入れ直してみてください。

症状	原因と対処方法
<p>2. 次のようなメッセージが表示される</p> <p>例：</p> 	<p>この表示はモニターが正常に機能していても、信号が正しく入力されないときに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンピュータによっては電源を入れても信号がすぐに出力されないため、左のような画面が表示されることがあります。 • コンピュータの電源は入っていますか。 • 信号ケーブルは正しく接続されていますか。 • 入力信号を切り替えてみてください。 • 背面の主電源スイッチを切り、もう一度スイッチを入れてみてください。 • コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取り扱い説明書「対応解像度」参照）。 • コンピュータを再起動してみてください。 • グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

4-2. 画面に関する症状（デジタル、アナログ共通）

症状	原因と対処方法
1. 画面が明るすぎる/暗すぎる	<ul style="list-style-type: none"> • 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」を調整してください。（液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、お客様ご相談窓口にご相談ください。）
2. 文字がぼやけて見える	<ul style="list-style-type: none"> • コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取り扱い説明書「対応解像度」参照）。 • 推奨解像度以外の解像度で表示した場合、表示された画像の文字や線がぼやけて見える場合があります。設定メニューの「スムージング」および「画面サイズ」で調整してみてください（「スムージング」(P.13)、「画面サイズ」(P.13) 参照）。
3. 残像が現れる	<ul style="list-style-type: none"> • この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。 • 長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。
4. 画面に緑、赤、青、白のドットが残る / 点灯しないドットが残る	<ul style="list-style-type: none"> • これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。
5. 画面上に干渉縞が見られる / パネルを押した跡が消えない	<ul style="list-style-type: none"> • 画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。
6. 画面にノイズが現れる	<ul style="list-style-type: none"> • 設定メニューの「オーバードライブ」の設定を「オフ」にしてみてください（「オーバードライブ」(P.10) 参照）。 • HDCPの信号を入力した場合、正常な画面がすぐに表示されないことがあります。

4-3. 画面に関する症状（アナログのみ）

症状	原因と対処方法
<p>1. 画像がずれている</p> 	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「ポジション」で画像の位置を合わせてください（「水平ポジション」(P.14) 参照）。グラフィックスボードのユーティリティなどに画像の位置を変える機能があれば、その機能を使用して調整してください。
<p>2. 次画面に縦線が出ている / 画面の一部がちらついている</p> 	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「クロック」で調整してみてください（「クロック」(P.14) 参照）。
<p>3. 画面全体がちらつく、にじむように見える</p> 	<ul style="list-style-type: none">設定メニューの「フェーズ」で調整してみてください（「フェーズ」(P.14) 参照）。

4-4. タッチパネルに関する症状

専用のタッチパネルドライバ（CD-ROM内）を使用している場合、タッチパネルドライバの取扱説明書（CD-ROM内）もあわせて参照してください。

症状	原因と対処方法
1. タッチ操作が効かない	<ul style="list-style-type: none"> • モニターとコンピュータがUSBケーブルで接続されていることを確認してください。 •  を押してみてください。 • モニターおよびコンピュータの電源コードのアースが接地されていることを確認してください。アースが接地されていないと、誤動作の原因となることがあります。 •  を長押ししてみてください（「1-1. タッチパネルの有効/無効を設定する」（P.4）参照）。 • TPOffsetでタッチパネルの感度調整を実行してみてください。
2. タッチ位置とカーソル位置がずれる / カーソルが飛ぶ	<ul style="list-style-type: none"> • セットアップガイドに記載のケーブルでモニターとコンピュータを接続してください。変換アダプタなどを利用すると、タッチパネルが正しく動作しない場合があります。 • モニターの電源を入れなおしてみてください。 • タッチ位置の補正を実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> - 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。 - Windows 標準ドライバを使用している場合は「2-2. タッチ位置を補正する」（P.6）を参照してください。 • モニターおよびコンピュータの電源コードのアースが接地されていることを確認してください。アースが接地されていないと、誤動作の原因となることがあります。 •  を長押ししてみてください（「1-1. タッチパネルの有効/無効を設定する」（P.4）参照）。 • モニターの位置や角度を変更すると、カーソルが飛ぶ場合があります。 • 金属をパネル面に近づけた状態で使用するとカーソル位置がずれる場合があります。 • タッチパネルが汚れていると、誤動作する場合があります。パネル面のクリーニングをおこなってください（取扱説明書「クリーニングの仕方」参照）。 • パネル面のクリーニングに帯電防止剤入りのクリーナを使用するとタッチパネルの感度に影響し、カーソル位置がずれる原因になることがあります。 • コンピュータやモニターの起動時、およびUSBケーブルの接続後、5秒間はタッチしないでください。カーソル位置がずれたり、タッチ操作が効かなくなる場合があります。その場合は、およそ2分間タッチパネルに触れずにおくか、モニターの電源を入れなおしてください。それでも改善しないときは、 を長押ししてください。 • TPOffsetでタッチパネルの感度調整を実行してみてください。 • モニターの画面サイズを切り替えると、カーソル位置がずれる場合があります。画面サイズを切り替えた場合は、タッチ位置の補正を実行してください。 • 推奨解像度以外の解像度で表示する場合、グラフィックスボードのスケーリング機能の影響でタッチ位置とカーソル位置がずれることがあります。その場合はグラフィックスドライバの設定を確認し、グラフィックスドライバでのスケーリングからモニターのスケーリングに変更してください。設定を変更した後、もう一度タッチ位置の補正を実施してください。

症状	原因と対処方法
3. カーソルがタッチ位置に表示されず、モニターの中央を中心に点対称の位置に表示される	<ul style="list-style-type: none"> • タッチ位置の補正を実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> - 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。 - Windows標準ドライバを使用している場合は「2-2. タッチ位置を補正する」(P.6)を参照してください。
4. カーソルが揺れる / 描画線が安定しない	<ul style="list-style-type: none"> • モニターおよびコンピュータの電源コードのアースが接地されていることを確認してください。アースが接地されていないと、誤動作の原因となることがあります。 • TPOffsetでタッチパネルの感度調整を実行してみてください。 • 金属の影響がある場合、カーソルが安定しない場合があります。 • 複数台のモニターを近接して設置している場合は、モニター間の間隔をあけて設置してください。
5. タッチ位置の補正が正しく動作しない	<ul style="list-style-type: none"> • 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。 • いったん調整状態をリセット (Windowsコントロールパネルの「タブレットPC設定」/「Tablet PC設定」の「画面」タブで「リセット」をクリック) して、タッチ位置の補正を実行してください (「2-2. タッチ位置を補正する」(P.6)参照)。 • Windowsコントロールパネルの「タブレットPC設定」/「Tablet PC設定」の「画面」タブで「セットアップ」が完了した後に一度「タブレットPC設定」を閉じ、もう一度「タブレットPC設定」/「Tablet PC設定」の「画面」タブを開いてタッチ位置の補正を実行してみてください。
6. タッチ音が鳴らない	<ul style="list-style-type: none"> • Windows標準ドライバを使用している場合、タッチ音は鳴りません。タッチ音を鳴らす場合は専用のタッチパネルドライバを使用してください (「第2章 タッチパネルの設定」(P.6)参照)。 • 専用のタッチパネルドライバを使用していてタッチ音が鳴らない場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。
7. マルチタッチが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> • コンピュータを再起動してみてください。 • 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。

注意点

- TPOffset (タッチパネルの感度調整用ソフトウェア) については、TPOffsetの取扱説明書 (CD-ROM内) を参照してください。

4-5. その他の症状

症状	原因と対処方法
1. 設定メニューが表示できない	<ul style="list-style-type: none"> 操作ボタンのロックが機能していないか確認してみてください（「3-8. 操作ボタンのロック」(P.18) 参照）。
2. 設定メニューにおいて、「画面調整」の「スムージング」が選択できない	<ul style="list-style-type: none"> 次の表示解像度や設定の場合は、スムージングを選択することができません。 <ul style="list-style-type: none"> - 解像度が 1920×1080 の場合 - 画面サイズが「ノーマル」の場合
3. 自動調整機能が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> 自動調整機能はデジタル信号入力時には動作しません。 この機能はWindowsなど表示可能エリア全体に画像が表示されている場合に正しく動作します。コマンドプロンプトのような画面の一部にしか画像が表示されていない場合や、壁紙など背景を黒で使用している場合には正しく動作しません。 一部のグラフィックスボードで正しく動作しない場合があります。
4. 音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ステレオミニジャックケーブルは正しく接続されていますか。 音量が「0」になっていませんか。 コンピュータおよび音声を再生しているソフトウェアの設定を確認してください。 DisplayPort入力時は「音源」の設定を確認してみてください（「音源」(P.15) 参照）。
5. モニターに接続しているUSB周辺機器が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> USBケーブルは正しく接続されていますか。 別のUSBポートに差し替えてみてください。別のポートで正しく動作した場合は、お客様ご相談窓口にご相談ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。 コンピュータを再起動してみてください。 直接コンピュータと周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、お客様ご相談窓口にご相談ください。 ご使用のコンピュータおよびOSがUSBに対応しているかご確認ください（各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください）。 Windowsをご使用の場合、コンピュータに搭載されているBIOSのUSBに関する設定をご確認ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。

第5章 ご参考に

5-1. オプションアーム取付方法

この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム（またはオプションスタンド）に取り付けることが可能になります。

注意点

- ・ 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- ・ ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- ・ 取り外したスタンドを昇降させないでください。モニター本体を取り付けていない状態でスタンドを昇降させると、けがや故障の原因となります。
- ・ モニターおよびアームまたはスタンドは重量があります。落としたりするとけがや故障の原因になります。

設置条件

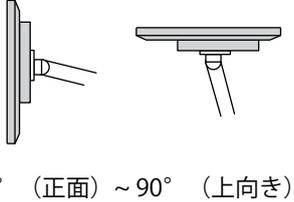
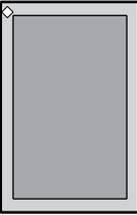
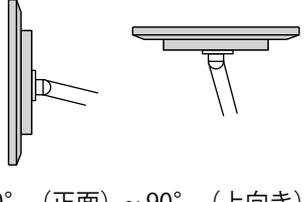
他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。

- 取付部のネジ穴間隔：100 mm × 100 mm
- プレート部の厚み：2.6 mm
- 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること

他社製のアームまたはスタンドを使用する場合、取り付けには次のねじをご使用ください。

- 本体部分とスタンドを固定しているねじ

アームまたはスタンド取り付け時の設置条件は次のとおりです。

	設置方向	表示方向
横置き		 0°（正面）～90°（上向き）
縦置き		 0°（正面）～90°（上向き）

取付方法

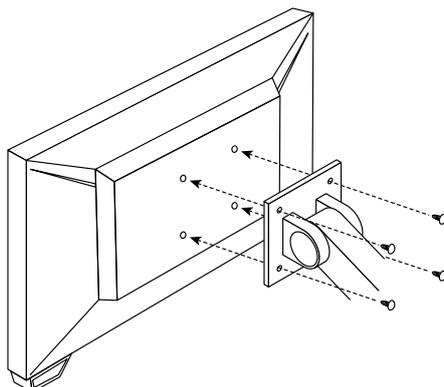
1. パネル面が傷つかないように、安定した場所に柔らかい布などを敷いた上に、パネル面を下に向けて置きます。

2. スタンド部分を取り外します。

ドライバを使って、本体部分とスタンドを固定しているねじを取り外します。

3. モニターにアーム（またはスタンド）を取り付けます。

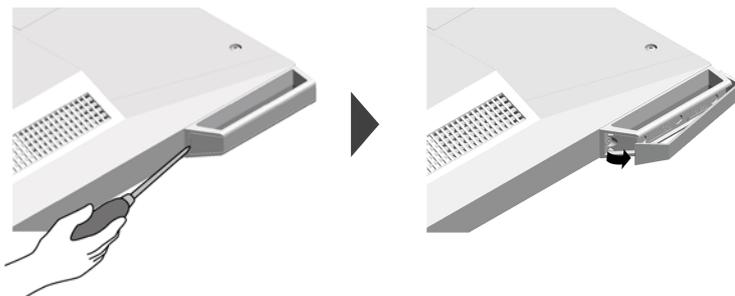
アームまたはスタンドの取扱説明書で指定のねじを使って取り付けます。



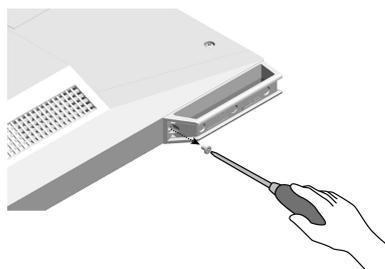
参考

- 縦置きに設置するときは、次の手順でモニターの底面の脚を取り外してください。
- 取り外した部品は大切に保管してください。

1. 脚のカバーを取り外します。



2. 本体部分と足を固定しているねじを取り外します。



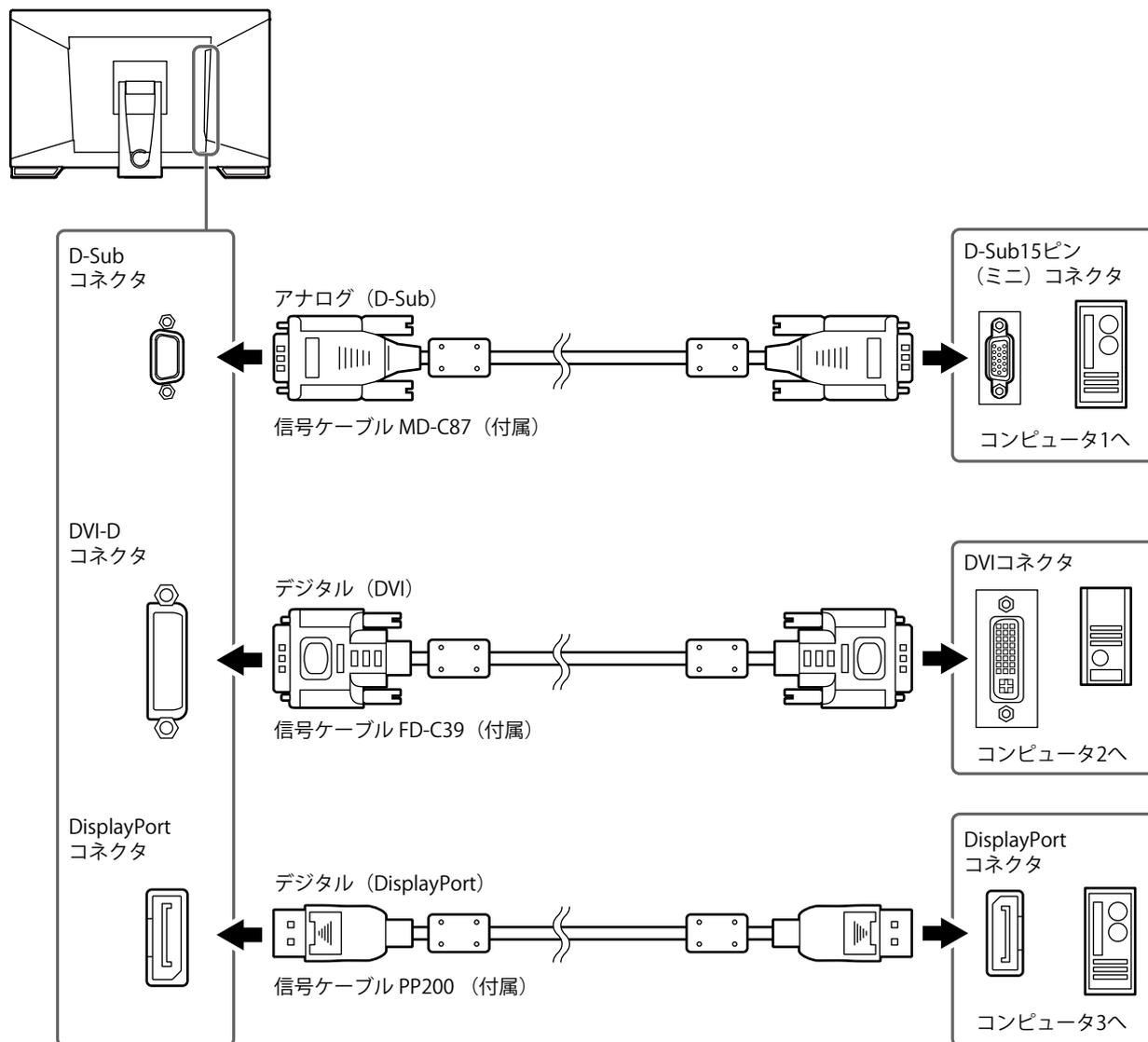
3. 次の図のように、モニターの外側に向かってスライドして足を取り外します。付属のシールを貼ると穴をふさぐことができます。



5-2. 複数のコンピュータを接続する

この製品は、複数のコンピュータを接続し、切り替えて表示することができます。

接続例



注意点

- タッチパネルはUSB接続されているモニターに対してのみ動作します。

5-3. 主な初期設定値

● カラーモード

モード	輝度	色温度	ガンマ値
User1	約 260 cd/m ²	オフ	2.2
User2	約 260 cd/m ²	オフ	2.2
sRGB	約 260 cd/m ²	6500 K	2.2
DICOM	180 cd/m ²	7500 K	DICOM GSDF

● その他

タッチパネル	有効
カラーモード	DICOM
画面サイズ	フルスクリーン
スムージング	3
パワーセーブ	オン
Ecoタイマー	オフ
言語選択	日本語
メニューポジション	中央
入力信号	オート

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing, LLCの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

DisplayPortコンプライアンスロゴ、VESAはVideo Electronics Standards Associationの登録商標です。

SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。



DICOMは、National Electrical Manufacturers Associationが所有する、医用情報のデジタル通信に関する規格の登録商標です。

Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

ThunderboltはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AdobeはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、macOS、Mac OS、OS X、Macintosh、ColorSyncはApple Inc.の登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、CuratOR、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorEdge Tablet Controller、ColorNavigator、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO Monitor Configurator、EIZO ScreenSlicer、G-Ignition、i-Sound、Quick Color Match、RadiLight、Re/Vue、Screen Administrator、Screen InStyle、UniColor ProはEIZO株式会社の商標です。

その他の各会社名、各製品名は、各社の登録商標または商標です。

ライセンス

本製品上で表示される文字には、リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が制作したビットマップフォントを使用しています。

